

図書館だより

埼玉県立図書館

11号



母と子の

ふれあいコーナー

たとえば、夏は、けやきの木の繁った緑の木陰で。冬は、ほかほか暖かい日差しをうけて、子どもとお母さんが本を読みまかせる。

—そんな情景をイメージにいだきながら久喜図書館が「母と子のふれあいコーナー」を前庭につくりました。

これは、県が地域に結びついた文化行政をきめ細かに実施するために行った「文化化モデル事業」の一つです。

けやき、さるすべり、こぶし、きやら、シヤクナゲなどの植えられた芝生の園に、筑波石、女性像の彫刻、藍や黄のストールが散在する美しいコーナーです。皆さんのご利用をおまします。

20
1
2
3
4
5
6
7
8
9
130
1
2
3
4
5

先日、上司から「図書館の裏方」とでも題して「図書館だより」の原稿を書くように言われた。

仕事を抱えて家に帰らねばならない実態からして、引受けるのは無理と判断し、辞退した。ところが編集者は執拗だった。私の辞退を許さなかった。課に持帰り、みんなに相談。「へえ、収書課は裏方ですか。私は第一線の課だと思ってました。私はそんなの書きません」

「気安く引受けられては困るなあ。忙しいということ知ってるでしょう。まだやらねばならない新刊・古書の選定、寄贈図書の入準備、資料取り、目録づくり等々……どうするんです」たまたま居合せた他の職員、「大丈夫ですよ、酔ったよだれで、すぐ文章をつくる文人がこの課にはいますから、ヘッヘッヘ」

ディシャツと拒絶され、正論吐かれ批判され、おちよくられては立場がない。協力してもらうにはかなりの時間がかかりそう。もうタイムリミットは近いのだ。引受けたのは私である。課の日常があるがままに書けばいいはずだ。話題にこと欠かぬ収書課である。この際、業務の一担を紹介しよう。

○月×日 窓口からリクエスト・カードが回ってきた。見れば一セット四〇万の高価本も混じっている。新刊で他館にもない。借用も出来ない。稀用本である。予算の都合もある。持込み本同様、県立四館で協議。情報を持寄っている人な角度から検討。効率的なサービスは、総合的な蔵書体系の形成にある。この選取会議の目的は、資料の共同利用と保存を前提とした収集分担調整なのである。結局この高価本は、県立浦和が引受けた。

悲喜こもごも 図書館の裏方

変です。こんな持帰って整理するわけでしょう。整理課あたりから文句はでませんか。苦笑する職員に「素面では出来ません」と言っておいた。

△月×日 N氏より電話。ちよっと入手できない資料が、ダンボール三箱あるという。必要あれば売却してもよいとのこと。車で出向く。綴は縦びきは焼けた小冊子。一点一点目をとす。確かにこの分野の研究者には喉から手が出る価値ある資料。

みじめな空振り。どこかで誰かが笑っている感じであった。

×月○日 A市立図書館より払出し資料ありの連絡を受ける。早速出向。ホルルの片隅に、雑誌・新聞・図書が混然一体。加えて塵芥の類。これはひどい、なんとかならなかつたのかなどと言ってはられない。今日的に価値なしの資料にみえても将来的に貴重な資料になるものもある。注意をはらって選別し車に積載。要した時間およそ二時間。Yシャツはおろかネクタイまで汗まみれ。「片付いて助かります。しかし県立さんも大

他に売られては大変である。一筆書いてお預かり。さてどのように値をつけるか、思案するうち全身かゆくなって来た。

△月○日 ある県の〇市立図書館視察。この図書館、業務の大半を機械処理。中めずらしいのが端末機の開放。利用者は誰にも知られず、迅速かつ的確に、簡単な操作で読みたい本を探し出す。機械化と人員削減を訊いてみた。「貸出だつて月四万冊、書誌情報の提供等業務量は増大、機械も人も共に必要。職員数は12から23になりましたよ」嗚呼！

埼玉の 文学 歌人とその作品

▼5▲

◆斎藤茂吉 (明15・5・14)

昭和28・2・25

・夜おそく風呂のけむりの香をかき
て世にも遠かる思ひぞわがする
・犬いで来いいで来しと思ふばかり
に川の対岸に雉子は打たれぬ

斎藤茂吉(さいとう・もきち)は山形県の生まれ、東京帝大医学部で精神病学を専攻、東京で病院を経営すると共に、島木赤彦死後の「アララギ」を率いた歌人でした。

茂吉はしばしば埼玉を訪れて歌を作りましたが、最初は大正三年の晩秋のころで、「秩父山」「時雨」と題する各八首を作り、共に歌集「あらたま」に収録されました。掲出の一首はその中の歌で、人里離れた感じを出しています。大正十年には八



三峰山上の斎藤茂吉歌碑

月の「アララギ」安居会に出席のとき、「第三回安居会」として一首、「三峯山上」と題して五首が作られ歌集「ともしび」に収められました。その中の次の一首は三峯山上の歌碑に刻まれています。

ふ鳥が音かなし山の月夜に
茂吉は夜毎に鳴く仏法僧の声に心を動かされたということです。

昭和九年には三峯登山口で行われたアララギ歌会に出席、翌日中津峡を訪ねて得た「秩父吟行」十三首は歌集「白桃」に収められました。掲出の二首はその時の歌で、狩猟の場面をリアルにとらえています。茂吉は太平洋戦争末期に郷里に疎開、晩年の歌境を達成しましたが、「最上川逆白波のたつまで」にふぶくゆふべとなりけるかも」などが殊に有名です。近年、茂吉に関する資料が続々と世に出ています。『共同討議斎藤茂吉の世界』(青土社刊)には、大宮市在住の詩人、中村稔氏が著者の一人に加わっています。

ふ鳥が音かなし山の月夜に
茂吉は夜毎に鳴く仏法僧の声に心を動かされたということです。

平野万里著

「晶子鑑賞」
(昭和54年復刊版)



◆平野万里 (明18・5・25)

昭和22・2・10

・陽炎のもゆるをながめわか草の子
らは手を取り春の野をゆく
・我が胸は野をやく炎あかあかと空
にうつるをたえず夢みぬ

与謝野寛・晶子夫妻の興した「新詩社」には、すぐれた歌人が競って集まりましたが、北原白秋、石川啄木、吉井勇などのように早く独立して個性を開いていった人々も多かったなかに、長く寛・晶子夫妻のもとにとどまって、師風を守った歌人もいました。そのなかの一人、平野万里(ひらの・ばんり)は、埼玉に生まれた人でした。北足立郡の遊馬村(あすまむら)といえますから、今

の大宮市の西部にあたります。本名を久保(ひさやす)といいました。

しかしその一家は、万里の六歳のころ東京に移ってしまいました。父親の甚三は森鷗外と親しく、その長男の於菟(おと)氏がしばらく平野家に預けられていて、久保と乳兄弟として育ったといえます。鷗外は観潮楼歌会を興すなどして、明治時代の短歌史の上に足跡を残した歌人でもありましたが、万里はこの鷗外の影響で短歌を作り始めたといわれています。新詩社に入つたのは一高在学中の明治三十五年でしたが、その後東京帝大応用化学科を出て、技術畑で活躍した人でもありました。仕事の関係で何度も外国に渡り、ローマでは次のような歌を作っています。

・我が汽車はロオマに着きぬいにしへは使徒のパオロの何を見つらむ
・金色のイエスは人にあらざれば白き伽藍の頂上に立つ

戦後の昭和二十二年、与謝野夫妻はもう世に亡く、その長男光(ひかる)氏が主宰する第三期「明星」の発刊に尽力していましたが、創刊を目前にして他界しました。没後その遺稿「晶子鑑賞」(昭24・三省堂)が刊行され、また、初期の作品を集めて明治四十年に上刊された第一歌集「若き日」は筑摩書房版「現代短歌全集」第一巻に収録されました。

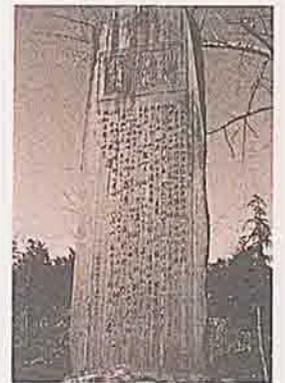
◆釈 逈空 (明20・2・11 昭28・9・3)

・葛の花 踏みしだかれて、色あたらし。この山道を行きし人あり
・山かげに獅子笛おこる獅子笛は高麗のむかしを思へとそひびく
「葛の花」の歌は、釈逈空(しゃくちようくう)の第一歌集『海やまのあひだ』にあり、逈空の代表作の一つにあげられています。この歌の歌碑が、比企郡吉見町松崎の松本氏宅の広い庭の中に建てられています。この家の若くして亡くなった歌の門人の死を惜しんで、逈空が筆をとったものです。二首目の歌を刻んだ碑は、入間郡日高町の高麗神社にあり、昭和五十年十月、同神社の宮司、高麗氏によって建立されたものです。



若き日の釈逈空

万作おどりを歌った四首が見られま。大宮を訪れて歌ったのではなく、一座を東京に招いて作ったように歌われており、昭和九年八月の制作と見られています。民俗芸能に対する関心の深さがうかがわれます。
・くちをしを 日ごろをあれば、袖乞ひの昔をどりを 呼びて来させ
・いにしへの無慙法師の旅ごころを ぞどる男は、汗をかきたり
・袖乞ひの踊りたのしき。あまりにも たのしくあるを あやしむむとす
・おもしろくしてすなはち さびし 古踊り。見れば、うつつの悲しまるなり
逈空の『海やまのあひだ』、『春のことぶれ』、『倭をぐな』などは、筑摩書房版『現代短歌全集』に収録さ



仙覚律師遺跡の碑の 佐々木信綱筆跡

れており、その独特の歌風に接することが出来ます。
◆窪田空穂・佐々木信綱・吉野秀雄 村野次郎など
飯能市に何度も足をほこんだのは窪田空穂(明10・6・8-昭42・4・12)でした。天覧山で作った歌に次の一首があります。
・久しくもありて何するこの羅漢松は 風とあそび聞の楽しき
歌人であり、国文学者でもあった佐々木信綱(明5・6・3-昭38・12・2)もしばしば埼玉を訪れており、越生の梅林には次の一首を刻んだ歌碑が建てられています。
・入間川高麗川越えて都より越し甲斐ありき梅園の里
この歌は昭和十一年に来遊のとき

の作で、信綱はこのほかにも、野田の鷺山を歌った。
・名におへる野田のさき山白妙の袖ひるがへす天津舞姫
などのほか、小川町に万葉学者仙覚律師の遺跡を訪ね、
・新墾(にいはいり)の道をひらきし功とはに麻師宇の郷の名はとこしへに
と歌った一首は、仙覚律師遺跡の碑の碑陰に刻まれています。
このほか、
・ふかや葱深谷の駅に積まれるて埼玉あがた冬に入りけり
と、深谷名産の葱(ねぎ)を歌った吉野秀雄(明35・7・3-昭42・7・13)、野田の鷺山を訪れて、
・青空の高きにかははねのしてゆたかに渡る白き鷺見ゆ
と歌った村野次郎(明27・3・19-昭54・7・16)、歌集『軽雲集』に秩父を歌った作品
・三つ峰に見下す秩父奥ひろし四方をめぐりて雲垣の山
などをとどめたアララギ派の歌人中村憲吉(明22・1・25-昭9・5・5)など、まだまだ書きつくせませんが、以上で、近代から現代までの埼玉にゆかりの深かった物語歌人の章を終ります。

東西南北

新着フィルム映画会 3月18日(木)14時
「親と子の朝」他 (川越)
クラシック・コンサート 3月19日(金)13時30分
メンデルスゾーン交響曲第四番「イタリヤ」他 (久喜)
新着フィルム映画会 3月19日(金)14時
「大いなる南極大陸」 「豊かなる手話」他 (川越)
春休み親子映画会 3月25日(木)10時・14時
「がちょうに乗って」他(川越)
春休み親子映画会 3月26日(金)10時・14時
「シャベルにかける青春」 「ピバーの谷」 (川越)
名画鑑賞会 3月27日(土)10時・13時30分
「赤頭布ちゃん気をつけて」(久喜)レコード・コンサート 3月27日(土)13時30分
ブラームス「交響曲第四番ホ短調」 (熊谷)
春休み子ども映画会 3月30日(火)13時30分
「黄色い雨がさ」 「鳩と車いす」他 (浦和)
第二土曜映画会 4月10日(土)13時30分
「ぼくの変身」 「小さな愛のふれあい」他 (浦和)
第三水曜アニメーション映画会 4月14日(水)15時
「にんぎょひめ」 「あかずきん」他 (浦和)
映画会 4月16日(金)12時15分
「竹細のさと」 (熊谷)

▼複写サービス

図書館では、所蔵資料について複写サービスを行っております。しかし、それには、著作権法上の制限がいくつもあります。①個人的調査研究が目的。②公表された著作物の一部分。③同一資料については一人一部。④定期刊行物については相当期間を経過したものなどです。また、資料が破損しやすいものについては、応じられません。複写サービス時間、実費等については、各館にお問い合わせの上、御利用ください。

▼拡大読書器

弱視者用に開発された読書器で、資料台とテレビからなっています。利用者は自分の読みたい資料を台の上に載せ、弱視の程度に応じて四〜二十倍に文字を拡大し、テレビ画面に写して読むことができます。読書の際だけでなく調べものをするときにも大いに有効です。弱視者だけでなく、細かい文字を読むのが大変な方たちにも便利です。県立図書館では各館に拡大読書器を備えて、皆さんの利用を待っています。

▼マイクロリーダー

新聞、官報などを写真撮影し、マイクロフィルム化したものを読み取る機械がマイクロリーダーです。すぐ、複写できるものがマイクロリーダープリンターです。館別に主な所蔵マイクロフィルム資料を挙げてみますと、①毎日新聞・埼玉新聞・サンケイ・読売、東京各新聞の県版②朝日新聞・官報・太政類典、埼玉県府県史料、③読売新聞、④朝日新聞(戦後分)、埼玉新聞です。館により、複写サービスは行っておりませんので御注意ください。

▼立体コピー

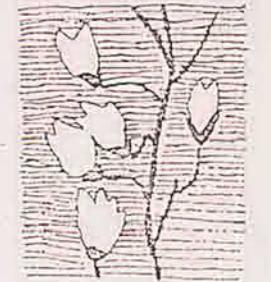
立体コピーは、図や表が熱処理によって簡単に盛り上がり、視覚障害者が手でさわってわかるようにしたものです。特殊紙の表面に熱で発泡するマイクロカプセルが塗ってあり、その上に必要な図や表をコピーした後、現像機を通して熱を加えます。するとその部分が盛り上がり、触れることでどういう図か表かわかる訳です。この立体コピーは川越図書館で有効な利用法を考慮中です。春ごろには利用していただける予定です。

県立図書館の利用時間は.....

	開館時間	休館日
貸出閲覧・調査相談 (一般書) (新聞・雑誌)	9:00~19:00 主曜日・日曜日 9:00~17:00	月曜日(月曜日が 祝日の場合は火曜 日) 月末日 春・秋特別整理日 開館記念日 4月1日 浦和・熊谷 10月1日 川越 6月1日
“(児童書)	9:00~17:00	
対面朗読(川越・久喜)	9:00~17:00	
視聴覚	9:00~17:00	
移動奉仕	主曜日 9:00~12:00	日曜日

- 埼玉県立浦和図書館 千336 浦和市高砂3-1-22 ☎0488-29-2821
- 埼玉県立熊谷図書館 千360 熊谷市箱田5-6-1 ☎0485-23-6291
- 埼玉県立川越図書館 千350 川越市新宿町1-17-1 ☎0492-44-5602
- 埼玉県立久喜図書館 千346 久喜市下早見85番地 ☎0480-21-2659

図書館の周辺



合同蔵書目録

いま、県立図書館では、県立四館合同蔵書目録編纂の刊行準備が進んでいます。これは、県立四館が所蔵する資料を、合同目録として統合すること、資料の総合的な利用の促進を図ろうとするものです。

誰れもが、どこに住んでいても、県立図書館の資料を利用できるようにするために、その手懸りとなる蔵書目録は不可欠のものです。このことは、今日の情報化社会の中で、多様な学習要求を持つ人々に、身近かな場所、資料利用の便を図書館が保障するというにもなります。この蔵書目録が刊行されることにより、県立図書館と市町村立図書館及び関係諸機関等との間の、資料提供上の組織的な連携が一層深まる

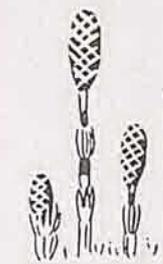
近年、質的にも量的にも、徐々に充実の方向にある埼玉県の図書館間相互協力業務が飛躍的に、効率的に推進することが期待されます。更に、合同目録編纂業務を通して、四館にわたる県立図書館の資料源の充実が図られ、それは必然的に県立四館における図書資料の効率的な収集・保存の分担調整にも波及していくことでしょう。

この目録が、図書館ネットワークの基盤の上に活用されるよう、実用性を重視した「使える蔵書目録」の在り方を追求する中で、蔵書目録本来の機能を十二分に発揮することを目標とし、現在、この作業を進めています。

五十六年度は目録刊行のための基礎的な仕事をしました。これをもとに、五十七年度から六十一年度までの五か年間に、蔵書情報を迅速かつ的確に提供するために、電算写植システムを活用し、合同蔵書目録(書名篇四分冊・著者篇三分冊・分類篇三分冊)刊行順)を刊行する予定となっています。

県内図書館めぐり

与野市立図書館



与野市における図書館サービスが始まってから十年目、これまで市役所の東庁舎三階に併設されていた狭い図書館が、床面積にして約六倍の独立館に生まれ変わり、昨年十二月八日にオープンしました。

○建物 鉄筋コンクリート地上三階建、延床面積約二、四八八平方メートル
○二階 一般開架(家事、芸術、文学)、児童コーナー、雑誌・新聞コーナー、リスニング・コーナー(レコード試験)、対面朗読室、車椅子用トイレ、B M車庫(移動図書館車庫)
○三階 視聴覚ホール、おはなし室
○蔵書数 約十万冊(移動図書館用、分館用含む)
○休館日 毎週月曜日、祝日、月末

日、年末年始、特別整理日
○開館時間 十時~十七時三〇分
○特色
●蔵書のほとんどは開架で、将来的には十二万冊開架の予定。また、一階と二階は間仕切りを設けず、家具の配置換えが容易にできます。
●展示コーナーは市民のミニ・ギャラリーとして、ホールは音楽の練習スタジオとして使用できるなど、市民の文化活動のための場所としても機能します。
以上が新館の概要ですが、今後はサービス網の充実と、市民の多様な要求にこたえ得る内容を備えたいと考えています。



所在地 与野市下落合122
TEL 0488-53-7816

本のひろば

〔大活字本〕

最近の出版文化の隆盛にもかかわらず、弱視者用の図書は、ほとんど刊行されていません。読書意欲は大変旺盛でも、読める本がなく、読書離れを余儀なくされてきましたが、国際障害者年を契機に、弱視者にも読める本として、大活字本がいくつ出版されました。

今回は、県立図書館で収集した読み物を紹介します。活字の大きさ、形など考慮してあるので、お年寄りや弱視者にとって読みやすくなっています。出版点数が、まだまだ少ないのでご希望にそえません。極力収集に努めますので、どうぞご利用下さい。

記載の内容は一般書、児童書に分け、以下の順になっています。

書名・著者名・底本・出版者
出版年・所蔵館名

【一般書】

青べか物語 上下 山本周五郎 新潮文庫 埼玉福祉会 昭56 (浦・)

- 熊・久 赤穂浪士 1~6 大仏次郎 新潮文庫 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 熊・久 阿部一族 他2編 森鷗外 岩波文庫 埼玉福祉会 昭55 (浦・)
- 雨やどり 上下 半村良 河出書房新社 埼玉福祉会 昭55 (浦・)
- 伊豆の踊り子 他5編 川端康成 岩波文庫 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 田舎教師 上下 田山花袋 岩波文庫 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 恩讐の彼方に 他8編 菊池寛 岩波文庫 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 月山 森敦 河出書房新社 埼玉福祉会 昭55 (浦・)
- 河童 他2編 芥川龍之介 岩波文庫 埼玉福祉会 昭55 (浦・)
- 雁 森鷗外 岩波文庫 埼玉福祉会 昭55 (浦・)
- ぐうたら人間学 上下 遠藤周作 講談社文庫 埼玉福祉会 昭55 (浦・)
- 草枕 夏目漱石 岩波文庫 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 社会 昭56 (浦・)
- くるま椅子の歌 上下 水上勉 中央公論社 埼玉福祉会 昭55 (浦・)
- 戯作三昧 他9編 芥川龍之介 新潮文庫 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 健康のメカニズム 水野肇 東京書籍 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 小僧の神様 他10編 志賀直哉 岩波文庫 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 桜島・日の果て 他3編 上下 梅崎春生 新潮文庫 埼玉福祉会 昭55 (浦・)
- 山椒大夫・高瀬船 他4編 森鷗外 岩波文庫 埼玉福祉会 昭55 (浦・)
- 三四郎 上下 夏目漱石 岩波文庫 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 春琴抄 谷崎潤一郎 新潮文庫 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- それから 上下 夏目漱石 岩波文庫 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 短歌添削教室 木俣修 玉川大学出版部 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 土と兵隊 火野葦平 新潮文庫 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 天平の薨 井上靖 新潮文庫 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 野菊の墓 他4編 伊藤左千夫 岩波文庫 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 俳句日暦 上下 石寒太 右文書院 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 歯車 他2編 芥川龍之介 岩波文庫 埼玉福祉会 昭55 (浦・)
- 坊っちゃん 夏目漱石 岩波文庫 埼玉福祉会 昭55 (浦・)
- 町かどの福祉 秋山ちえ子 柏樹社 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 妻と兵隊 火野葦平 新潮文庫 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 門 上下 夏目漱石 岩波文庫 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 雪国 川端康成 岩波文庫 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 吉野葛・盲目物語 谷崎潤一郎 新潮文庫 埼玉福祉会 昭56 (浦・)
- 羅生門・鼻・芋粥・偷盗 芥川龍之

- 介 岩波文庫 埼玉福祉会 昭55
(浦・熊・川・久)
- 私の動物誌 古賀忠道 東京書籍
埼玉福祉会 昭56 (浦・熊・久)
- 吾輩は猫である 上中下 夏目漱石
岩波文庫 埼玉福祉会 昭55・56
(浦・熊・川・久)
- 【児童書】
- 兔の眼 上下 灰谷健次郎 理論社
埼玉福祉会 昭55 (浦・熊・川・久)
- うめぼしのいす 永谷健一 どちらね
こ工房 昭54 (浦)
- ガラスのうさぎ 高木敏子 金の星
社 埼玉福祉会 昭55 (浦・熊・川・久)
- 川・久
- きつねものがたり ヨセフ・ラダ
福音館 どちらねこ工房 昭54 (浦・熊)
- 銀河鉄道の夜 宮沢賢治 岩崎書店
埼玉福祉会 昭56 (浦・熊・久)
- くまの子ウーフ 神沢利子 ポプラ
社 どちらねこ工房 昭55 (浦・熊)
- 少年少女シートン動物記 1-7
シートン 金の星社 埼玉福祉会
昭55 (浦・熊・川・久)
- 太陽の子 上中下 灰谷健次郎 理論社 埼玉福祉会 昭56 (浦・熊・川・久)
- つるのおんがえし ひろいずみ どちらねこ工房 昭53 (浦)
- てぶくろをかいに 新美南吉 論創社 昭54 (浦・熊)
- 星の王子さま サン・テグジュペリ 岩波書店 どちらねこ工房 昭53 (浦・川)



■ あとがき ■

いよいよ春めいてきました。目のさめるような新緑も、もうすぐ展開されますね。

その前ぶれではありませんが、表紙に「緑陰で本を」という、おもしろい発想を込めた、野外図書館の完成をお知らせしました。十分にご利用下さい。県立図書館も単に、多彩な蔵書の公開、貸出しにとどまらず、利用者になえずひらかれた図書館のあり方を考えています。この号では、特に利用者から見えない仕事の部分にまとをしばり、図書館の裏方的な仕事の一部を紹介しました。こんな仕事もついてまわるのかと、思う方がありましたら幸いです。

埼玉の文学も、毎号二頁をあててまいりましたが、この五回目で一応完結させていただきます。皆様のご愛読に対し深謝いたします。

今回は与野市の立派な図書館を紹介しましたが、当市は人口十万人を越え、今後は人口十万人を越える計画を持っている所では必見の館と思います。

ここに昭和五十六年度の最終号をお送りいたしました。五十七年度はなお一層の新鮮さを加えた頁で、埋めてまいりたいと思っております。一層のご協力をお願いします。

おたずねください

「袖ふり合うもたしよの縁」のたしよは「他生」か「多生」か？

答 「他生の縁」が古く「平家物語」や謡曲「田村」などにみられるのに対し、「多生の縁」も「太平記」にみられます。

現在は、ことわざの編さんも「大辞書」や「大漢和辞典」が優勢ですが、「大日本国語辞典」「大言海」「大日本国語辞典」「大辞苑」「日本国語大辞典」などの

「袖ふり合うもたしよの縁」主要辞書はすべて「他生」は「多生の誤り、「他生の縁」は「多生の縁」の誤用としています。生」の誤り、「他生の縁」は「多生の縁」の誤用としています。生」の誤り、「他生の縁」は「多生の縁」の誤用としています。生」の誤り、「他生の縁」は「多生の縁」の誤用としています。

これとは逆に、中村元著「仏教語大辞典」には「他生の縁」前記、または後世の縁」とあり、さらに同編「仏教語源散策」をみると、「他生の縁」というと、主として前世における因縁をさすので「前世に結ばれた縁」という説明は「他生の縁」という言葉の解釈としてのみ適切である、といっています。